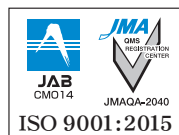




独立行政法人国立病院機構
沖縄病院



〒901-2214
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号
TEL : 098(898)2121
FAX : 098(898)6433 (地域連携室直通)

2021年5月 No.105 発行/地域医療連携室



【沖縄病院 診療科の案内】

- ★肺がんセンター ★外科
- ★呼吸器内科 ★消化器一般内科
- ★脳・神経・筋疾患研究センター
- ★脳神経内科 ★緩和医療科
- ★放射線科 ★麻酔科 ★病理診断科

【沖縄病院 病床数：300床】

- ★がん専門病棟：60床
- ★神経筋病棟：145床
- ★緩和ケア病棟：25床
- ★結核病床：30床
- ★地域包括ケア病棟：40床

【目次】

- 1ページ：呼吸器外科手術場面
- 2ページ：副院長挨拶・臨床研究部長挨拶
- 3ページ：看護部長挨拶
- 4ページ：新戦力紹介(医師・看護部)
- 5ページ：部門紹介(リハビリ室・南3病棟)
- 6ページ：連携室便り・連携病院紹介

基本理念

患者さまの立場を尊重し
高度で良質の医療を提供します

運営方針

1. 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実



GINOWAN CITY FM 81.8Mhz
ぎのわんシティFM

毎週月曜日9時30分から当院職員による病気に関する様々な情報をラジオ放送しております。当院HPにも放送内容を掲載していますのでご覧ください。



副院長 挨拶

令和3年度に向けて



渡嘉敷 崇 副院長

平素は当院の診療と運営にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、春風が心地よい季節となって参りました。本来、春は門出の希望に満ちた季節なのですが沖縄県におけるコロナ感染状況は4月17日には新規感染者が167人と過去最多を更新するなど、安心して過ごすことが難しい状況が続いております。

現在、医療従事者にコロナウイルスに対するワクチン接種が順次始まってきています。引き続き、高齢者の接種も開始されていく予定です。当院は限られた医師数、コロナ感染症専門以外の医師・病院職員でそれぞれが出来ることを考えコロナ感染症診療に取り組んでいます。沖縄県医師会、行政とも連携してこの難局を乗り越えていきたいと考えています。

一方で当院は国立病院機構として肺がん、結核、神経難病の拠点病院として診断、治療に当たるという使命があります。私の専門領域である脳神経内科ではコロナ禍の状況で外出の機会が減り運動量の低下からADLの低下を来しているパーキンソン病の方もいらっしゃいます。短期間のリハビリ強化入院を行うなど個人個人にあった医療を提供できるように心がけています。また、医療人の育成という観点からも協力病院から専攻医や研修医を受け入れ教育にも力を入れております。感染拡大防止策もしっかりと講じながら診療と受け入れ体制を取っていきます。皆様と共にこの難局を乗り越え、安心して季節感を楽しめる時を迎えましょう。

呼吸器外科チーム 紹介

(表紙写真)

信頼できる外科チーム



河崎 英範 臨床研究部長

5月23日に始まった緊急事態宣言も延長となり、県内各施設とも大変ご苦労されていることと存じます。

今回の連携室ニュース“美心(ちむぐくる)”では、沖縄病院外科チームを紹介いたします。まず、今年4月より国立がん研究センター東病院での研修を終了された2名の外科医が加わり、新体制での診療がはじまりました。

ご存じのように肺がん、縦隔腫瘍をはじめ胸部疾患を専門とする外科チームですが、新メンバー加入でより高い専門性を強みに、手術や治療カンファレンスには十分な時間をかけ取り組んでおります。手術が困難と予想される進行症例でも内科、放射線科と合同で協議し、積極的に集学的治療もすすめております。また病棟ミーティングでは、看護師をはじめ医師、薬剤師、理学療法士が加わり多職種で入院患者一人ひとりの経過を共有認識するよう心掛けております。

当科では、医師の働き方改革を見据え入院担当はグループ制としていますが、外科医全員で病棟回診し入院患者さんを把握し、休日は当番制で対応できる体制としております。コロナ禍であれ、外科医の手練を怠らず、明るい職場、よりよい外科チーム作りを心掛けております。職員一人ひとりの働き甲斐が、患者さんの安心感、みなさまの信頼感につながると考えております。

肺がん、縦隔腫瘍以外にも気道狭窄や内科治療に難渋する膿胸・感染症、診断治療にお困りのことがございましたらご遠慮なく沖縄病院外科までご連絡ください。



転任者 紹介

看護部長挨拶



末松 厚子 看護部長

このたび、令和3年4月1日付で着任いたしました看護部長の末松でございます。
ご挨拶申し上げます。

福岡を離れ、マリンプルーの美ら海を望む沖縄に降り立つと「めんそーれー」と那覇空港に設置された看板に迎えられ、心に安らぎを覚えました。そして素敵な“うちなーぐち”に触れるたびに、この美しい沖縄の地で生活されている方々に、安全で安心できる質の高い医療と看護サービスを提供できるよう尽力したいとの思いが一層強く湧きました。

沖縄病院は、沖縄県指定の難病医療拠点病院と結核医療中核病院に加え、肺がんと骨軟部腫瘍を中心としたがん専門病院であり、緩和ケア病棟と地域包括ケア病棟を有しています。そして新型コロナウイルス感染症の収束が不透明な今、With コロナの時代に果たす役割を担い、「患者様の立場を尊重し高度で良質の医療を提供します」の理念のもと、地域に愛され必要とされる病院づくりを目指しています。特に「見えないものを大切に」という組織指針を掲げ、“命薬”（良質の医療・看護）を提供し、“^{ちむぐる}肝心”（思いやりの心）をもち、そして“ゆいまーる精神”（助け合いの精神）を大切にしていってより良い医療の質の向上に努めています。

看護部の理念は、「病む人とその家族の人権を尊重し、信頼される責任ある看護サービスを提供します」です。患者さん一人ひとりにそれぞれの人生があり、夢があり、愛する家族があります。病む人が、生涯を通して最期までその人らしく人生を全うできる“^{ぬち}命しるべ”を支援し、“^{ぬちぐすい}命薬”（良質の医療・看護）と“^{ちむぐる}肝心”（患者の立場を尊重し寄り添う看護）を提供いたします。またスタッフ一人ひとりの責任ある行動と“ゆいまーる精神”（助け合い）とチーム力により看護の質の向上を目指してまいります。今日の医療・看護は、病院から地域へシフトしていくことが求められており、入院前から退院後を見据えた関わりと外来化学療法など外来看護の充実が課題であります。患者さんとご家族の視点に立った、入退院支援と外来看護の拡充に取り組んでまいります。また、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、看護師に求められる能力も多様化する中、未来の医療・看護を担う看護師を育成する責務があります。共に学び、助け合うことを大切に、看護専門職としての知識・技術、そして思いやりの心を育み、高い倫理観に基づいた質の高い看護が提供できる人材育成に力を注いでまいります。

今、日本を含む世界で新型コロナウイルス感染が拡大する中、地域と連携し仲間と共に心と力を合わせてこの苦境を乗り越えることができれば、コロナ収束という希望の灯がともる明るい未来に辿りつけます。今この瞬間も医療現場において沖縄病院の職員が一丸となり、医療と看護の提供体制に尽力する姿には頭が下がります。

美ら海を望む沖縄の魅力を心から満喫できる日を思い描き、沖縄県民としてまた沖縄病院の一員として希望の灯をともしよう役割を果たしていく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようゆたさるぐとうにげーさびら。



医 師

2021年4月より呼吸器外科スタッフとして赴任しました星野 浩延(ほしの ひろのぶ)と申します。妻(旧姓)仲宗根 尚子と国立がん研究センター東病院など日本屈指のhigh volume centerで多くの研鑽を積んで参りました。そこで得た知識と技術を用いて、肺癌を始めとする胸部悪性腫瘍の外科治療を中心に、沖縄の医療に少しでも貢献出来るよう、誠心誠意、努力を惜しまない所存です。どんな胸部陰影でも結構ですので、お気軽にご連絡頂けたら幸いです。



星野 浩延

呼吸器腫瘍科の久田と申します。

2004年に長崎大学を卒業し、初期研修修了後は済生会熊本病院・仙台厚生病院・那覇市立病院などに勤務しておりました。進行期肺癌を中心とした胸部悪性腫瘍・呼吸器疾患を中心に診療させて頂きます。進行期肺癌は根治困難とされていますが、治療は日進月歩の進化を遂げており、患者様やご家族に寄り添いながら、スタッフと協力しより良い治療を目指していきたいと思っております。よろしくお願ひします。



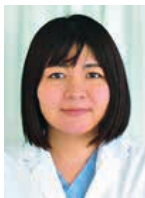
久田 友哉

はじめまして。2010年琉球大学卒の仲宗根尚子です。初期・後期研修を那覇市立病院で終えた後、肺がん治療を最前線の現場で学びたいと一年発起し、関東に6年ほど勉強に出て、この4月に沖縄へと帰ってきました。肺がんの治癒の可能性を追求するために外科治療は欠かせません。一人でも多くの患者さんが“治る”ように、フットワーク軽く診療を行って行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。



仲宗根 尚子

4月から沖縄病院脳神経内科で勤務している大城です。2018年3月まで沖縄病院で勤務していたので、お久しぶりの方もいるかと思ひます。3年間、仙台の病院でパーキンソン病関連疾患や認知症を中心に診療してきました。また故郷の沖縄で働けるので、ワクワクしています。患者さんのニーズを汲み取って、最適な治療を提案することを心がけています。質問や伝えたいことなど気軽にお声がけください。よろしくお願ひします。



大城 咲

こんにちは。中頭病院内科専攻医の山城志織と申します。沖縄出身で琉球大学を卒業しています。中頭病院のプログラムとして沖縄病院で3ヶ月(神経内科2ヶ月、緩和ケア1ヶ月)研修に参りました。神経内科・緩和ケア病棟を中心にまわり、上級医の先生の丁寧な指導があり、看護師さんやリハビリスタッフのみなさんなどコメディカルのスタッフも優しく、恵まれた環境だと感じています。短い間ですがよろしくお願ひします。



山城 志織

初めまして。友愛医療センター内科専攻医の仁藤寛文と申します。大阪出身で3年前に沖縄に来て、豊見城中央病院で働き始めました。今年の4月から内科専攻医として沖縄病院の神経内科で学ばせて頂いてます。すでに2か月経過しましたが、スタッフの皆さんがみな明るく親切なので働きやすい環境だと思います。普段見られないような神経・筋疾患の入院患者さんが多いため大変勉強になっています。勤務は6月までですが、よろしくお願ひ致します。



仁藤 寛文

中頭病院内科専攻医の山本航大と申します。初めまして。緩和ケア科1ヶ月、脳神経内科2ヶ月の計3ヶ月の研修になります。県内ではこの沖縄病院でしか経験できないような神経疾患、緩和ケアの症例からしっかりと学んで、さらに今後の研修に活かしていきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。



山本 航大

看護部

琉球病院から7年ぶりに、沖縄病院へ戻ってきました。看護師長の又吉直樹です。配属は手術室・中材で日々、先生方やスタッフ、各師長に助けられながら、励んでいます。



又吉 直樹

趣味は、アウトドアやマリンスポーツなど、体を動かすことが好きです。久しぶりの沖縄病院で新病棟になり、色々戸惑いもありますが、これまでの経験を活かし、沖縄病院へ貢献できるように頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

令和3年4月より、西2病棟脳神経病棟に看護師長として配属されました。趣味は球技や釣りです。前勤務地の宮古南静園では海に囲まれた職場で休みの日は海を散歩し太陽に照らされ肌の色も黒くなってしまいました。これまで脳神経病棟での勤務経験はなく、わからないこと多く迷惑をかけると思ひますが一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひします。



竹島 銀治

理学療法室

与古田 巨海 副理学療法士長



当院は「脳・神経・筋センター」とならび「肺がんセンター」を開設しており、リハビリテーションにおいても神経難病や呼吸器疾患の患者様を主としたサービス提供に努めています。

「脳・神経・筋疾患研究センター」では、パーキンソン病症候群や運動ニューロン病などの神経変性疾患や多発性硬化症や視神経脊髄炎などの免疫性神経疾患について高い専門性を持ってとりくみ、県内唯一の難病医療拠点病院に指定されています。リハビリは脳血管疾患等リハビリテーション(I)、障害児(者)リハビリテーションを施設基準とし、神経、筋疾患、難病の初期からの治療介入だけでなく、ロボットスーツHALを2017年より導入し実績を積み重ねています。

「肺がんセンター」では、肺がん患者様の術前から介入し、術後離床と合併症予防として早期からのリハビリをおこなっています。また呼吸器リハビリテーション(I)につぎ、2020年より「がん患者リハビリテーション」の施設基準を設け、がん自体による局所・全身の影響、治療の副作用、安静にしている期間や悪液質(がんの進行による全身の衰弱した状態)に伴う身体障害に大きく左右されますが、二次的に生じる機能低下に対する予防的アプローチ、がんによる機能障害に対するアプローチとより幅広くリハビリテーションのサービスを整えています。その他、廃用症候群リハビリテーション(I)、運動器リハビリテーション(I)の施設基準も設けており、更に地域に根差し、当院のもつブランド発信の一助としています。



南3病棟

末吉 温子 病棟師長



当病棟は、沖縄県における脳神経疾患医療の拠点病院としての役割を担っており、脳神経内科疾患の鑑別、確定診断、治療のため、検査・治療・薬剤調整・リハビリテーションを目的とした入院を受け入れています。

入院中の患者は、疾患の進行に伴い、運動・感覚・自律神経麻痺、摂食嚥下、呼吸・コミュニケーション障害など多岐にわたる障害を有しており、人工呼吸器管理など医療処置をなど、24時間を通して日常生活援助を必要とする患者が多いのが特徴となっております。

また、神経筋難病患者の嚥下機能低下に対し、摂食嚥下看護認定看護師による摂食機能訓練や評価を行い、安全に食事が提供できるように取り組んでいます。退院支援では、多職種カンファレンスを通し、今後の方向性等を確認し、患者家族にとってよりよい環境(退院先)を提供できるように、地域連携室看護師(退院調整看護師)と連携し、退院支援に繋がっています。

沖縄県は新型コロナ感染拡大状況にあります。感染予防対策を徹底すると共に、県内医療機関の皆様と協力し、患者家族が安心して療養出来るよう努めたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。



へパフィルター設置



病棟風景



カンファレンスの様子



地域連携
便り

「ちむぐくる」に感謝申し上げます!

地域連携室の窓口に心温まる贈り物が届けられ、感謝申し上げます。
贈り物の中には、素敵な折り鶴とともに、新型コロナウイルス感染症に対する“終息”への願いと励ましのお手紙が添えられていました。(左写真)
折り鶴に込められた思いと励ましのお言葉を糧に、新型コロナウイルス感染症に負けないよう各医療機関との連携強化を図りますので、今後ともよろしく願いいたします。



沖縄病院と連携していただいている医療機関をご紹介します

医療法人寿仁会 沖縄セントラル病院

- ◆ 診療科目 / 脳神経外科、整形外科、内科、消化器内科、循環器内科、外科、皮膚科、歯科、心療内科、リハビリテーション科
- ◆ 附 設 / ガンマナイフセンター、高気圧酸素治療センター、健康管理センター、メディカルフィットネスセンター、訪問看護ステーション
- ◆ 所在地 / 〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1丁目26番6号
- ◆ 電話番号 / 098-854-5511
- ◆ 休 診 日 / 日曜日、祝祭日(歯科は木曜午後、土曜午後休診)



沖縄セントラル病院
理事長・病院長
大仲 良一(おおなか よしいち)

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9 : 00 ~ 13 : 00	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
午後 2 : 00 ~ 6 : 00	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

この度、「地域医療連携ニュース」への執筆依頼をいただき感謝申し上げます。
当院は、創立当初から他の医療機関とは競合しないオンリーワンを目指して今日まで運営して参りました。

県内随一のメスによる手術をすることなく脳腫瘍や脳血管障害治療が可能なガンマナイフ、現在各種疾病(保険適用)治療が可能な高気圧酸素療法、更に健康沖縄「長寿県」が破綻する事が予測され、健康管理センター設置をいち早く行い、現在公的機関をはじめ多くの法人企業を対象に実施しております。また、特殊検診として航空パイロット検診や海上保安庁船舶関係者の検診も県内随一の健診施設として貢献して参りました。他方、世界中の難民や生活困窮者の為の支援活動もAMDA沖縄支部として奮闘し、コロナ禍における沖縄県への看護師派遣等も行っています。

我が国は少子高齢化社会に突入し、各地域において地域包括ケアシステムが構築され、高齢者が住み良い安心して生活ができる環境づくりを目指しています。今後予測不能な災害、新興感染症等に対応できる地域密着型医療機関と連携して参ります。COVID-19感染症による甚大な医療逼迫は今後も懸念する必要があり、今後ともコロナ禍収束に向けての病診連携、地域連携室を中心にしたITを用いた病

診連携の効率化を目指して参りますので、どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

医療法人寿仁会
沖縄セントラル病院
理事長 大仲 良一



沖縄セントラル病院



ガンマナイフ パーフェクション



高気圧酸素療法



健康管理センター



高齢者複合介護施設
ユートピア沖縄